第6回　伊方町誌編さん委員会

【日　時】　令和５年３月７日　10:00～11:30

【場　所】　伊方町役場　3階会議室

【次　第】　１　開会あいさつ　濱松委員長

　　　　　　２　議事

1. 新伊方町誌レイアウトデザインについて

　　　　　　３　その他

【構成員】　**委員長**　濵松一良

**副委員長**　谷村栄樹

**委員**

中川未来（愛媛大学准教授）

井村桂子（元伊方町役場職員・伊方地域）

井上利彦（元伊方町役場職員・瀬戸地域）※欠席

宇藤 司（元伊方町役場職員・三崎地域）

高嶋賢二（佐田岬半島ミュージアム副館長）

稲田美樹（図書館司書）

　　　　　　　　**町誌編さん業務受託者**

　　　　　　　　　岡田印刷株式会社

**事務局**　藤川輝之（総合政策課課長補佐）

松下洋二（総合政策課　係長）

林　優里（総合政策課　主事）

中元真理（総合政策課　主事）

議事内容

1 開会あいさつ

（委員長）

第6回新伊方町誌編さん委員会ということで、委員の皆様にはお忙しい中ご出席をいただき、ありがとうございます。これまで5回、この委員会は開催をして参りました。委員の方々から出たご意見を反映しながら、新町誌の編さんを、スケジュールで言いますと、昨年から編集の着手ということに入っているわけでございます。

今年度と来年度の上半期ぐらいまでに編集作業が続くのではなかろうかと思っております。委員の皆様にはまたこういう委員会でご意見をいただきながら、よりよい新町誌を編さんして参りたいと思いますのでどうぞよろしくお願いをいたします。

簡単ではございますが挨拶とさせていただきます。本日はよろしくお願いいたします。

（事務局）

ありがとうございました。それではこれより議事内容に入ります。新伊方町誌編さん委員会設置要綱第7条の規定により、委員長は議長の職につき、議事の進行を行っていただきます。

それでは濵松委員長、よろしくお願いいたします。

2　議事（1）新伊方町誌レイアウトデザインについて

**「新伊方町誌レイアウトデザインについて」岡田印刷より説明。**

（委員）

先ほどの話ではありませんが、8ページの下から3行目の中に「アジ」「サバ」とあるんですけれど、これが今使えるかどうかってちょっと確認してもらえたらと思います。

というのも、産地偽装というのがありまして、県の方からこの名前を使うなっていう話があったと思うので、これが現在もあるのかどうかだけ確認取ってもらったらと思いますので、よろしくお願いします。

（事務局）

わかりました。この部分確認させていただきます。

（委員）

ページの端に小見出しが来るのは、検索しやすくてすごくいいなと思ったのと、ノンブルというかページ数の字がちょっと小さ過ぎるかもしれないという気はしましたので、高齢者の方も含めて考えるともう少し大きくてもいいかなというのを思いました。

さっきの「岬アジ」「岬サバ」の方は、産業の方で触れることがあるんだったら、平成何年からはこういう言い方を一時期使っていたみたいな書き方もあるかなと思いました。

この自然の説明のところで商品名的なものを出すかどうかみたいなところも、今使えないんだったらいついつまでは使っていたというところを、3章のところに入れるのはありかなと。

（委員）

これもちょっと何かあやふやな感じがあって、使うときもあるし使わないときもあるし、正式にこれを町誌の中で載せるのがいいのかどうかっていうことを含めて、ちょっと検討していただければ。

（委員）

旧三崎時代から使っているんでしょうか。

（委員）

　使っていますね。

（委員長）

私も8ページでわざわざ岬アジ、岬サバを自然環境のときに載せる必要が本当にあるのかなと思いますね。これはどう考えるかいうのはあるんですけれども、知事の方からの提案もあって、「岬アジ」、「岬アジ」とは呼ばずに「三崎アジ」ですね。「はな」とはなかなか読めません。「三崎アジ」というブランド化を図ってはどうかという提案をいただいて漁協及び農林水産課の方で検討していたと思うので、そこら辺もまた確認をしてください。

（事務局）

はい。また確認させていただいて適切な形で記載させていただいたらと思いますのでよろしくお願いします。

（委員長）

私の方から、扉の写真、何か委員の方から何かご意見はないですか。

伊方町は「小さな町の大きな自然」「二つの海が見えるまち」をキャッチフレーズにやっているんですけれども、風車も悪くないですがそこら辺のやっぱ写真のチョイスの仕方ですね。

今年度は、写真の専門家にいろいろ、風景とか、行事等々とってもらっていますので、写真の蓄積はありますよね。

（事務局）

あります。

（委員長）

エネルギーのまちでもあるし、風車が見えるまちでやってはきておりますけれども、そこら辺も含めて検討していただいたらなというふうに思います。

（事務局）

全体を見ながら、また検討させていただきたいなと思っています。

（岡田印刷株式会社）

各編の扉のところだけ先にご提案をするようにいたします。

（事務局）

よろしくお願いいたします。

（委員）

非常に文字の大きさや行間、レイアウトが配慮されていて読みやすいものと感じました。今、ユニバーサルデザインということで、多様な人に受け取りやすいデザインを、公共の製作物でも求められていると思います。それに対応している、非常に良いデザインと思いました。

それに関してですが、ふりがなの基準っていうのは執筆要綱にございましたか。というのは、私は伊方の出身でもないのですが、意外と地名とかが、このまま読んでいいのかなと迷うところもあります。例えば10ページの構造線とか、明らかに読めないであろう変成岩帯とかそういった難読のものにはすでにふりがなが振られていますが、町内の方のみならず、町外の人にも、また大人だけではなくて、この本を手に取るのは高校生中学生ぐらいからかなと思いますが、ある程度基準をどこに置くかは難しいんですけれども、ふりがなは多めでいいのではないのかなと感じました。

（委員長）

ありがとうございます。今の件は岡田印刷さんいかがですか。

（岡田印刷株式会社）

ふりがなは通常で高校生以上が読みにくい文字には入れる方向にしております。なおかつ順次校正をしていただく段階でここの読みが必要であるというご指摘があったら順次修正していきます。

（委員長）

高校生以上が読めるというところで基準を設けているみたいですよね。

（委員）

やっぱりなんか常用漢字とか習う段階によって線引きしないと、基準ができませんので、それで結構だと思います。

一方で、地名についてはちょっと細かめに入れていただければありがたいかなあという気がいたします。例えば、例えば三崎町、旧三崎町の集落の名前とか町村制施行時のその村の名前、「三崎」とかは読めるんですけど、その6ページの「神松名」？

（委員長）

　「かんまつな」ですね。

（委員）

普通に漢字で、音読み訓読みする以外の読み方っていうのも多分地名だとあると思います。

今の神松名もそうですけれども。ですので、記名に関しては、ややうるさくなるかもしれないけれども入れてみてはいかがでしょうか。

もしくは、明らかに常用の読み方ではないものに関して入れるなどしていただければ、よりいろんな人に町の情報が発信できるかと思います。

これについては、伊方町内にどれだけ外国籍の方がいらっしゃるのかわからないんですけれども、やっぱりユニバーサルデザインという観点からは、多様な住民に向けた配慮というのも求められるかと思います。以上です。

（濵松委員長）

はい、ありがとうございます。伊方町内の地名の読み方だけじゃなしに、ふりがなの件については、よろしくお願いをいたします。はいその他ございますか。

それでは続いて、別冊の方について岡田印刷さん説明をお願いいたします。

**「別冊のレイアウトデザインについて」岡田印刷より説明**

（委員）

子供からお年寄りまで、手に取って見てもらおうというふうなものもありますので、B案の方がよりわかりやすいというか、写真とかイラストが入って、いいんじゃないかなというふうに思います。ただ、この赤色がきつすぎるかなというのがありますので、できたらこちらの色をやわらかくする方がいいんじゃないかなというふうに思います。

（委員長）

B案がいいんじゃないかなということですけれども、その他はいかがですか。

（委員）

私も最初、案をもらったときB案、先ほどと同じような意見ですが、このA案の方は、最初の時に欠席者の名前を書かれておられるんですが、B案はないんですけど、これは意図があるんですか。

（岡田印刷株式会社）

そういうところは調整してないんですけれども、入れた方がいいのか、入れないほうがいいのかっていうのはまだ決定しておりません。

（委員）

この時欠席したっていうことがずっとここに残るというのは、というのと、名前を出されているのに、A氏B氏みたいに匿名みたいなことになるのが、どういう影響があるかなと思います。

例えば、A氏かB氏かわからないけどこの人が話したら、この地域ではこうなんだっていうことがわかるっていう感じの地区を代表してそれぞれ話しているので、A氏B氏で匿名にしてしまうのがいいのかどうかというのを思ったのと、それからこないだの三机のときはそうでしたけど一言も発言しない方がおられたかと思うんですが、そういう時、そこの地域のことについての情報はもうここで反映されなくなるということを、どうフォローするか、ということですよね。

あと、町見で座談会をした後、「記録が残るんだったらもうちょっと言うたらよかった」と言って、個別にミュージアムの方に電話があって、話をさせてくれって言って語りに来た方が2人ぐらいいらっしゃいました。その人の意見をどこに汲み取るかというところもあって、普通にこの1回きりのお話の議事録的にまとめることのいいところと悪いところをどうするかという気はいたしました。

B案の方が取っつきやすくはあるんですけど、それぞれの方の似顔絵を書かれるということなんですか。禿げ頭だったり白髪だったりするので、その方の心情とかも含めると、どこまでというのは、若干思います。

（岡田印刷株式会社）

いや、イラストは雰囲気ですね。

（委員）

B案の方が見やすいのは見やすいんですけど、この感じだと、かなりページ数がかかってくるのかなと思うんですけど、そこのところはどうですか。

（岡田印刷株式会社）

ページ数は基本64ページの範囲内で収める予定にしております。これまで話していただいた内容を含めても、今回の話だけをまとめる方向であればそこまでいかないんじゃないかなという感じではあります。

（委員長）

B案でも64ページまではいかないんですか。

（岡田印刷株式会社）

委員さんが言われたように、他の方の扱いをどうするとか、後から来られた方の話を追加っていう話で、ここから膨らましていくとなると、厳しい感じはします。

（委員）

ページ数の問題は僕も気にしていたのですがおさまるであろうと。ただ、高嶋委員が言われたように、全部発言を入れるとやっぱり結構膨らむというか、その後の編集とかが必要になるのかもしれないなとは思いました。

ある程度の編集を加えて、話題が似ているところは整除するとか、手を加えた方が、情報は受け取りやすいのかなと感じます。その際に、例えばエンドウ豆ぐらいなら分かるでしょうけれども、葉タバコとかは小学生とかが分かるかなと言うものもあります。ですから、発言の中でちょっと補足が必要なところなどは、注記というか、補いをどこかでつけてあげるとか。B案では例えば葉たばこの花はこうだよというイメージを示されていますが、工夫があってもいいのかもしれないと思いました。

各地区からの代表の方が出てこられて、それぞれ話していらっしゃいます。で、参加者を見ると、ほぼ男性なんですね。これは地区を代表するんだからとか、役場から声がかかったんだからっていうので男性が出席されるっていうのはわからないではないんですけれども、今、どの組織でもジェンダーバランスを意識した運営っていうのが強く言われています。そういったことを考えると今後のお声がけとか、補足でのコメントというところと関わるかと思いますが、女性の方の声というのもすくい上げる必要があるのではないかと思います。歴史学の観点からいうと、やっぱり男性の方と女性の方では、ライフサイクルが異なって、同じ場所に住んでいても、やっぱり見えているもの、知識、経験などが全く違うということが明らかになっています。

ですから、ある程度の男女のバランスをとるまでは難しいかもしれませんが、女性の声を拾い上げる姿勢があった方がいいのではないかと感じました。

（委員長）

はい。ありがとうございます。今のジェンダーバランスについてはどうなんですかね。

（事務局）

事務局の方から説明させていただきます。おっしゃる通り、座談会をやっていく中で、メンバーの中からもそういった意見をいただきまして、旧伊方町の湊浦と町見地区の時は代表者を出してくださいと言った結果、全員男性でした。その中で、旧瀬戸町の三机地域の方をさせていただいた時には、男女1名ずつ出してくださいということでお伺いさせていただいて、出ていただくようにしております。

（委員長）

2回目からは配慮しているということなのですね。他ございますか。

（委員）

発言についてですけれど、「今農協の事務所になっている宮内（？）」の文なんですけど、これはこのままですか。宮内って保内の製糸工場、あそこのことですよね。「農協の事務所に」と言ったら、伊方の人的には、伊方の農協をイメージして、高齢者の年配の方はわかるとは思うんですけど、これがちょっとイメージ的にどうなのかなと疑問に思いました。実際に宮内でしていたとは思いますが、少し検討だけして、このままでいいんでしたらいいと思います。

（岡田印刷株式会社）

これはまだ聞き取れなくて、最初の段階のもので調整してない文になります。事務局さんの方からも新しいデータをいただいていますので、それとすり合わせて、最終的には調整します。

（委員長）

その他ございますか。

岡田印刷さんから提案のあったこのA案、B案ですけれども、どちらで進めるかということですけれども、ちょっとB案が多いみたいなんですけども、委員の皆さんもご意見を取りたいと思います。

（委員）

例えば、唐きびや高きびの写真を添えたりというようなビジュアル的な工夫があるならA案ですね。

（岡田印刷株式会社）

A案作成の時には、写真の選定が出来てなかったので、一応入れるようにはしているんですけども、入れ方をどういう風にするかっていうのは検討中です。

（委員）

例えば先ほどの欠席者の書き方とか、細かいところをこの場で、どっちにしようかということがあったら決めていった方がいいかもしれないと思うんですがどうですか。

（委員長）

はい。では、まず欠席者の取り扱いについてということでございますが、これはもう決をとって、よろしいですか。

（委員）

欠席者を書かなかったら湊浦から一人も参加していないということに見えてしまうという難しさもあり。

（委員長）

そこは補足コメントで加えたら。

（事務局）

今回については、ほぼ全地区から出ていただいているところではあるんですけど、町見、瀬戸でやった時に出席いただいてない地区も少し多くなってきていますので、そういった中で、うちから出てないじゃないかっていうところが、際立つことにならないかという懸念があります。

わかりづらくなってしまうので、全体として、この地域の人たちを対象に集まっていただきましたっていうような、そういうところがわかるようにさえしておけば、何地区から誰が出たとまでは書かなくてもいいかなと個人的には思います。

（委員）

そうして、このB案の名前を掲載しても、どこそこから出てないのが見えますので、例えば、全部もう削ってしまって、「伊方町の湊浦地区で、こういう聞き取りを行った結果こうなりました」という注意書きを入れて、あとこうやってずらずらっと書いていくっていうやり方も、あるのかなって思います。

（委員）

難しい話ですけど、参加された方の思いもあるかなと思いますね。

（委員）

「名前を載せます」っていうことで始めているんですか。

（事務局）

「名前を載せます」とは言ってはないです。皆さんが語っていただいたことを載せますと、伝えております。

（委員）

そのことに関して、やっぱり地区名は出すと明示した方が、記録としてはいいのではないかと思います。

能登の地震があって、伊方もメディアに多く出ています。今回の企画というのは、何かあったときに、かつてこういうところがちゃんとあったんだっていうのを、町として記録に留めるっていう意味もあるんじゃないかなと思います。

ですから、災害だけじゃなくて住んでいる人が少なくなって、なくなってしまう集落というのもおそらく今後出てくるでしょう。そのことを考えると、今の時点で○○地区から、こういう証言が出ているんだっていうことを明示するのはやっぱり大きな意味があるんじゃないかと感じます。

（委員長）

はい。ありがとうございます。○○地区って書いておきながらその地区の方がいないというのはなかなか難しいですね。そこはコメントで補足するという形は取れるんじゃないかと思います。

（岡田印刷株式会社）

確認したところ、上島町では、細かな地区名は掲載しませんでした。そういった例もあります。

（委員）

A案とB案で、そういわれるとスタイルが結構違いますね。A案はないですけど、B案のこの「湊浦」というのは開催した場所という意味ですか。

（岡田印刷株式会社）

そうです。

（委員）

町見、三机は何となくわかるんですが、伊方・湊浦というのはちょっと違和感があります。この「湊浦」の必要あるんですか。

（委員）

瀬戸と三崎エリアは村単位で分けましたね。旧三机村エリアで集まった時に、「三机村ならではの個性はありますか」みたいな質問の中で「いやもうそれぞれの地区よ」みたいな感じでの返答で、さらに細かい個性があるので入れてしまってもよかったか悪かったかみたいなところはあります。

（委員長）

なるほど。瀬戸とか三崎もそういう旧村で分けておるわけですね。

（委員）

ここの部分を残しつつ、先ほどの補足コメントじゃないですけどしっかり文章で「残念ながら欠席された方もいらっしゃったけれど、皆で話しました」とかいう説明を入れた上で、こういう座談会でしたっていう裏側の経緯もちゃんと書くようにすると、別冊ですし、読み物としていいかもしれませんね。これだけぽんと情報が入っているっていうことじゃなくて、全体のこういう1回きりの座談会があったねっていう読み物だったらいけるかな、と。

これだけで多分、村の記録としては、拾いきれてないでしょうから。1回きりの座談会ですけどこの時にこういう声が集まりましたという説明付きならばまだ許せるところです。

B氏C氏ってこの匿名になっている感じのところは、思うところはないですか。

（委員）

もし名前を出すんだったら、名前出してもいいんじゃないのと、上の方にもしその大浜○○さんとかいうのが、出るのであれば、名前を出してもいいんじゃないかなあと思います。

ただ、密造酒の話とかね、微妙っていうところが引っかかってこられる方もいらっしゃるかもしれない。だから、発言を引き出すときに、特にお名前を載せませんからって言うのであれば、皆ああだこうだ言いやすくなるかもしれないなあとは思いますが、それでもそれも一長一短ですよね。

（委員）

今の密造酒でわかりました。匿名でもいいかもしれません。

（岡田印刷株式会社）

個別の名前を拾い出すのは、非常に至難で。これでわかる方は、地域の方おられますけど、我々はちょっと把握しきれないそうです。

（委員）

実際こういう言葉遣いじゃなくて本当は「えー」とか「あー」とかいろいろ言っていることでしょうから、なおさらこんなしゃべってないって言われるよりは、要するにこういう発言だったというまとめ方をされていると思いますし。

（委員長）

編集者側の問題があるようなのでもうこれは匿名でいいんじゃないかと思います。

要はこのA案B案っていう雰囲気ですよね。いわゆるA案はもう型どおりに、B案はもっととっつきやすくしたというところでしょうね。

（委員）

問題ないとは思いますけど、「貧乏人の子だくさん」とかいうのは大丈夫なのかというのと、昔は「兄弟5、6人が普通」ってこのC氏は言っていたと思うんですけど、10人はざらだったんで、この発言が少し気になります。貧乏といえば貧乏だったかもしれませんが。

（委員）

この人の発言だからいいんじゃないですかね。

（岡田印刷株式会社）

言っちゃまずいことは外しています。

（委員長）

A案B案、雰囲気的な違いだと思うんですけれども、どちらがいいと思われますか。

（委員）

雰囲気で言えば、Bの方が当然、手に取りやすいとは思います。ただ情報を盛り込むんだったらAの方が、盛り込めると思うんですけど。やっぱりインデックスがついていたり、お顔のイラストを載せるか載せないかを別として、発言がこういうふうにありましたってビジュアルでわかるのはやっぱりBの方がいいのかなあと感じます。

（委員長）

大勢を占めたので、Bの全体のとっつきやすい雰囲気としては、こちらはBで行くとして、あとは先ほど言ったように色ですね。確かに赤は気になりますし、暖色系がいいんじゃないかとか。匿名はそれでいいと思います。それで、この顔のイラスト。これはどうですか。

（委員）

あったら、分かりやすくていいんでしょうけれど、なくてもいいと思います。

（委員長）

イラストは外すということでよろしいですか。

（岡田印刷株式会社）

はい。

（委員）

細かいことですが、とっつきやすい路線でいくのなら、好みの問題ですけど、「Aさん」「Bさん」の方が「A氏」「B氏」よりもいいんじゃないかなと思います。

（委員長）

そうですね。それと、地区について、伊方は別段「湊浦」と書くより「伊方」でいいんじゃないですか。「伊方」でわかると思います。「伊方・伊方」と書くのもいかがなものかと思うので。

（委員）

A案は「伊方地区」なんですよね。

（委員長）

「伊方地区」「町見地区」、瀬戸は「三机地区」と「四ツ浜地区」という風に、「瀬戸・三机」と書かなくてもいいんじゃないですかね。

（一同承認）

（委員長）

そしたらそういう形でお願いいたします。

あと、皆さんの意見の中で、ここで決めておかなければならないのは何かありましたか。

（委員）

結局、名前は載せるっていうことでよろしいですか

（委員長）

だから地区も名前も、この大浜とか中之浜とかと名前を載せるというんでしょうね。補足を入れながら。

（委員）

年齢はやっぱり76歳とか93歳とかまで書きますか。それとも70代とか。

（委員）

この集まった日の時点での、ご高齢の方を選んできてもらっているというところでは、ありかなと思いました。

（委員）

本人が同意されているのであれば、個人を特定する情報には当たらないので、本人さえよければいいんですけど、例えば、女性の場合、もしかしたら気にされるかなっていう気はしましたね。

ただ、年代がわからないと、いつぐらいのお話っていうのがわからないので、ぼかすんだったらば90代男性とかね、それぐらいなのかなと思いますが、気になったので。

（委員長）

今の年齢の方は、いかがですか。

（委員）

お名前も出てるし、僕は具体的に出したらいいかと思います。町誌が出る頃には、この中でもういらっしゃらない人もいるでしょうし、この日に集まったこの人を、この時は元気だったっていう、集まった日時も会場も書いているんですから、この日集まってくださったという記録としてはいいと思います。

（委員長）

年齢も書くということでよろしいですか。

（一同）

はい。

（委員長）

では、地区もお名前も年齢も性別も書くということでよろしいですかね。

そういうことで、そしたら雰囲気としてはもうB案ということで決定さしてよろしいでしょうか。

（委員）

もう1点だけ、松井先生の声かけと書くか、クエスチョンと書くかという分け方もA案B案の中にあると思うんですけど、ここはどうしましょう。

問題文のようにクエスチョンで投げかけられたような座談会ではなかったと思うので、まとめるのは難しいとは思うんですが。

読んでて違和感とかを特に感じなければお任せでいいとはおもいますが。皆さんはどうですか。

（委員）

お年寄りが見たときに「クエスチョン」は意味が分かるのか、っていうところはありますね。「クエスチョン」を消しただけでも、質問になっているので消してもいいんじゃないかと。

（委員長）

そうですね。のけてもいいですね。「クエスチョン」はのけるということでよろしいですか。

　（一同承認）

それではこのレイアウトデザインについては以上をもって閉じさしていただいてよろしいでしょうか。

（岡田印刷株式会社）

当初、語り部集はモノクロ、一色刷りの予定でしたけれども、予算の範囲内で、今回もカラーでさせていただくようにいたしました。

（委員長）

はい、ありがとうございます。それではレイアウトデザインについては閉じさせていただきたいと思います。

次、その他についてですけれども、全体を通して何かございますか。

（事務局）

事務局の方に岡田印刷さんの方から原稿が続々と届いております。今は事務局の方で一旦整理させていただいて、事務局と岡田印刷さんの方で確認作業を進めております。

その分で、事務局と岡田印刷さんの方ですり合わせたものを、また皆様に見ていただいて、確認していただくという作業を今後進めていきたいと思いますので、また原稿のチェックをお願いすると思いますので、よろしくお願いいたします。

その原稿の確認の仕方ですけれども、順次委員の皆さんにお流しして、皆さんから事務局の方にご意見を伺うのか、こういった形で委員会を開いて、その都度話し合うのか、どちらのスタイルがいいかなというところを考えておるんですけれども、どうでしょうか。

（委員）

　どれくらいの頻度で回ってくるんですか。

（岡田印刷株式会社）

今現状で第2編がほぼでき上がってお出ししております。そのあと順次、2ヶ月、3ヶ月後ぐらいに順次、編なり章なりごとに原稿が上がってきます。原稿の確認をしていただくとなると、かなりやりとりが多くなってくると思います。

（委員長）

他の市町で通常どういう形でやっているんですか。

（岡田印刷株式会社）

通常は、原稿が執筆の先生方から上がってきた段階で、役場の各部門の方でチェックをしていただいて、その分を返して、組んだものを構成として編さん委員会の方で確認してもらって返してもらってるという作業ではあります。

（事務局）

今考えているのと同じような形ですね。各課への確認については、今こちらの方でチェックをかけています。

（委員長）

執筆者から原稿ができたら事務局で各部門の方に見てもらって、こういう形になった段階で、この委員会でご意見をいただく、いいんじゃないですか。

ただ、区切りをどうするかですよね。これは第1編だったんですけど、編ごとにしましょうか。

（岡田印刷株式会社）

編だと量が変わってくる部分もあるので、章で考えていただいたらと思います。

今回でしたら第2編がほとんど出ていますので、この分のチェックを、例えば1ヶ月先までにしていただくとかですね、そういった形の区切りをつけないと難しいですね。

（委員長）

章ごとに、こういう原稿がまとまった段階で、委員会を開催し、委員の皆様のご意見をいただくと。

（委員）

編ごとの方が、いいんじゃないんですか。

（岡田印刷株式会社）

編もそれぞれ先生方の担当が違うので、その時一遍にその編が一緒に出せるというわけではないんです。その編の中でも、第2章が先に出たり、第5章が先に出たりということもあり得るので、

まとめて章を一遍に構成っていうのはなかなか調整しづらいですね。

編さん委員会の開催は、ある程度まとめた形での開催で構わないんですけれども、それまでに、PDFのデータでお送りしますので、それをチェックしていただきつつ、という形である程度まとめた段階で編さん委員会というのは開催していただいた方がいいですね。

（委員長）

事務局として今後のスケジュールをどう考えているのか、そういったところも含めて、そこはやっぱり岡田印刷さんと相談して示していただかないといけない。

今後のスケジュールについては事務局と岡田印刷さんの方で協議いただいて、この委員会を、どの時点で開催するのかというのも、当然そこで決めていただきたいです。

それでよろしいですか。

で、それをやっていて、次回委員会やってこれはちょっともう少し頻度を上げてということであればまたそこで修正はできますよね。

（岡田印刷株式会社）

現段階は、前倒しで、原稿の方上がってきていますので、早めには進んでいる状況です。

（委員長）

以前もらった資料では、これ執筆開始枠が、昨年の9月ということになっているんですよね。これ予定通り進んでいるんですか。

（岡田印刷株式会社）

はい。そこから今、資料関係を集めていただいて、今第2章まで原稿が上がっている状態です。

（委員長）

はい。わかりました。

でしたら、今後のスケジュールについては、両者ですり合わせをしてもらって、委員の皆様にはお知らせをするということでよろしいでしょうか。

（一同承認）

（委員）

これまでのやつとそれから今後、今、伊方町としてこういうことを取り組んでますっていう現在進行形のことも、知ってもらう意味で載ってはいるんですけど、とはいえ町誌なので、今やっているのは、いつから始めたみたいな、時系列というか、歴史的な町誌としての書き方がちょっともう少し反映されたらいいなというのを思いました。例えば、「小さな町のSDGs」っていつから言い始めたっていうのが少しずつ入っていると、町誌っぽいかなというのを、読んでて思いました。

それと、最後の方に各地区の紹介として、高嶋が書くところがあると思うんですけど、多分55集落55ページ、データ上無理なので、その辺の細かいお話を、また後でさせてください。例えば4人とか11人とかの集落を見開き全部こまめに書いていく、例えば佐市、高浦、上倉も、いろいろひっくるめて、大字三机で4ページとかそういう細かい調整の中で、書く部分を、ご相談させてください。

（委員長）

今後のスケジュールは以前の会議でこういうやつを、配られたんですよね。

これを時点修正して、この委員会では、今現在、当初予定に対してどういう進捗状況なのかというのは、わかるようにしたものを資料で提出していただいたらありがたいなと思います。

その他、全体を通じてありますか。

（委員）

全体に関わることではあるんですけれども、能登の地震があった時にパッと頭に浮かんだのが伊方でした。文化財関係に関して言うと、県が2021年に文化財保存活用大綱を作成して、現在は各市町が文化財保存活用地域計画を策定する必要があるということになっています。

何かあってからでは当然もう遅いし、能登はみんな被災しちゃって、文化財レスキューがなかなか進みにくくなっているんですね。

ですから、例えばこういった座談会の時に、機をとらえて、何かを残しとかないかんといかんものはありませんかねとか、指定非指定系を問わず、文化財の所在確認ですね。別にこれはもう町誌編さんの業務ではないので、できたら、事務局の方でちょっと聞いてみてはどうですかぐらいの話ですけれども、せっかくお金かけてやるわけですから、効率よく、そういう先手を打った情報収集を同時に考えていただければ、のちの町のためにもなるのではないかと感じました。

（委員長）

ありがとうございます。文化財関係は本当に、なかなか着手できていないところなんです。

学芸員の採用も含めて、ちょっと考えていかないといけないのかなと思ってます。

その他ございますか。よろしいですか。

それでは以上をもちまして私の任は降ろさせていただきます。事務局にお返しをいたします。

（事務局）

ありがとうございました。またスケジュールのほう、整理させていただいて皆様に共有させていただきます。

今後、こういった編集作業が進んで参りますので、いよいよ町誌の本番というところになってきますので、また皆様のお知恵をお借りしながらよりよい町誌ができるよう努めてまいりますので皆さまよろしくお願いいたします。

第6回編さん委員会、これで終了とさせていただきます。ありがとうございました。